

平成28年4月

各位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成28年4月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸では、平成29年1月1日の中核市移行に向けて、去る4月8日に、高市早苗総務相に、中核市の指定を求める申出書を提出しました。改正政令が閣議決定され、公布、施行されると、中核市に移行します。

これまで以上に、市民の皆さまのニーズを把握し、きめ細かな行政サービスの提供と、特色あるまちづくりのためにまい進してまいりますので、今後ともご指導、ご協力をお願いします。

さて、4月1日付けの人事異動により、当事務所の職員が、次のとおり変更となりました。当事務所所長の鈴木、新たに赴任しました古町、嘱託職員の籠利の3人体制となります。

引き続き、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

	東京事務所	旧職名 / 新職名
新	あるまち 古町 有加	(旧職名) まちづくり文化スポーツ観光部 まちづくり文化推進室
旧	おさき 尾崎 健介	(新職名) 総務部 行政管理課

### ◎八戸特派大使の方々へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市広報統計課または八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 4月号 レポート

平成28年3月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

No.	項目
1	八戸保健所と市民病院 初のMERS対応訓練
2	八戸市と周辺7町村 連携中枢都市圏に合意
3	町内会に若い人材を 八戸市が加入促進へあの手この手
4	八戸市と空撮事業3社が協定締結 災害時に無人機を活用

## 【産業】

No.	項目
5	八戸市内事業所の17%「現在も震災による影響がある」
6	六日町複合ビルにヤフー八戸センターが入居
7	三菱製紙 王子ホールディングスと協同でバイオマス発電事業を開始へ

## 【地域】

No.	項目
8	ワイングラスでおいしい日本酒アワード 桃川大吟醸純米が最高金賞受賞
9	高校家庭科技術検定で千葉高生7人が「四冠王」
10	蕪島山頂 風景変われどもウミネコ飛来続々
11	「ヒューマンバンド on 3.11」300人が祈りの輪
12	館鼻岸壁朝市 2ヵ月半ぶりに再開
13	八工大とJAMSTECが連携 海洋研究の専門家育成へ
14	八戸市民病院緩和ケア病棟 2019年度運用開始を想定
15	もぐらんぴあ(久慈市)の「カメ吉」5年ぶりに古里に戻る
16	日本酒ショップくるみや ネットショップ3年連続で金賞
17	蕪嶋神社再建募金 全国からの善意1400万円送る
18	千葉高看護専攻科 国家試験に4年連続の全員合格
19	八戸港に春の到来告げるブドウエビ水揚げ

## 【文化・スポーツ】

No.	項目
20	東北六魂祭(6月青森市開催)に八戸三社大祭参加へ
21	蕪島 遺跡試掘で縄文早期の建物跡発見
22	八戸学院大 女子ラグビー部創設へ
23	「八戸銀サバトロづけ丼」バス乗車券とセット販売
24	声楽アンサンブルコンテスト全国大会 八戸東高が初の金賞受賞!
25	昨夏の八戸三社大祭 経済波及効果は57億円

【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>八戸保健所と市民病院 初のMERS対応訓練</b></p> <p>八戸保健所は19日、中東呼吸器症候群（MERS）発生時を想定した実動訓練を同保健所と八戸市立市民病院で行い、関係者が患者移送時の注意点や各機関との連携を確認した。訓練は、MERS流行国で感染が疑われる患者を看護した30代の女性に、発熱の症状が出たという設定。感染症移送車両で病院に搬送した後、各担当者が検体採取や移送車両の消毒を行い、防護服の脱衣時にも注意を払うなどした。MERSの対応訓練は、八戸保健所では初めてで、保健所や市、病院の職員ら約30人が参加した。</p>
(2)	<p><b>八戸市と周辺7町村 連携中枢都市圏に合意</b></p> <p>八戸圏域定住自立圏を構成する八戸市と三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、おいらせ町、新郷村の1市6町1村は、3月23日にユートリーで市町村会議を開き、八戸市を中心市とする連携中枢都市圏の形成に合意した。連携中枢都市圏は、人口減少社会において、地方の生活や経済を維持するため、自治体間の連携を促す制度。小林眞市長は「中核市移行後、できるだけ早期に手続きを進め、2017年度からは国の財政措置を活用しながら連携中枢都市圏の取り組みを推進したい」と述べ、中枢都市の要件である中核市移行に先駆けて、連携協約や都市圏ビジョンの策定を進め、17年度の早い時期の都市圏形成を目指す方針を示した。</p>
(3)	<p><b>町内会に若い人材を 八戸市が加入促進への手ここの手</b></p> <p>“町内会離れ”に歯止めをかけようと、八戸市は2016年度、加入率アップ対策に本腰をいれる。インターネット動画やfacebook、コミュニティラジオBeFMで活動をPRするほか、担い手育成のための講座を実施する予定。加入率の低下に悩む町内会関係者は効果を期待する。</p>
(4)	<p><b>八戸市と空撮事業3社が協定締結 災害時に無人機を活用</b></p> <p>八戸市は、市内で空撮事業を手掛ける3社でつくる「青森県南UAV（無人航空機）ネットワーク」と、地震や津波、風水害などの災害時の情報収集に無人航空機を活用するための協定を締結した。災害時に市が設置する災害対策本部が必要と判断した場合、市から出動を要請された同ネットワークが、災害現場を空撮した動画を、メール送信やデータを持ち込む形で提供する。同様の協定締結は弘前市に次いで青森県内では2例目。</p>

【産業】

記事	概要
(5)	<p><b>八戸市内事業所の17% 「現在も震災による影響がある」</b></p> <p>今年2月に八戸市内の事業所を対象に行った、東日本大震災の影響に関する調査結果が公表された。回答した1263事業所の17.1%に当たる216事業所が「現在も（震災による）影響がある」とした。業種別では、製造業、卸売業で「影響がある」と答えた割合が多かった。現在直面している経営上の問題点は、「人材確保」が44.7%で最も多く、このほか「需要の停滞（売り上げ不振）」が37.6%、「仕入れ単価の上昇」が25.1%が目立った。</p>
(6)	<p><b>六日町複合ビルにヤフー八戸センターが入居</b></p> <p>八戸市の旧レック・旧マルマツ跡地の再開発で、江陽閣が六日町側に建設を進める複合ビルの2、3階の貸しオフィスに、ヤフー八戸センターが入居することが分かった。複合ビルは4階建てで「ガーデンテラス」と命名。1階がブックセンターなどが入る商業エリア、2・3階が貸しオフィス、4階は江陽閣が、屋上テラスやカフェなどを設けるとみられる。ヤフー八戸センターは現在十三日町のチーノに事務所を構えているが、従業員の増加や、現事務所の賃貸契約の更新時期を迎えたことなどを移転理由に挙げている。</p>

(7)	<p><b>三菱製紙 王子ホールディングスと共同でバイオマス発電事業を開始へ</b></p> <p>三菱製紙（東京）が主力の八戸工場で、王子ホールディングス（同）との共同によるバイオマス発電事業を行う。今秋にも建設工事に入り、2019年6月ごろをめどに事業を開始する計画。出力は7万5千キロワットで、年間110億円の売電収入を見込む。紙の需要が低迷する中、新規事業により、経営基盤の強化を狙う。</p>
-----	---

【地域】

記事	概要
(8)	<p><b>「ワイングラスでおいしい日本酒アワード」 桃川大吟醸純米が最高金賞受賞！</b></p> <p>日本酒造組合中央会で開催された「ワイングラスでおいしい日本酒アワード2016」審査会で、おいらせ町の酒造メーカー「桃川」が出品した「桃川大吟醸純米」が大吟醸部門で最高金賞を受賞した。アワードは、ワイングラスで日本酒を飲む新しいスタイルを提案し、世代や国を越えた日本酒の消費拡大を目指して開催され、今年で6回目。受賞した桃川大吟醸純米は、青森県産の「華想い」を使用。同社の関係者は「華やかな香りが特徴的な華想いなのでワイングラスで飲むには最適。日本酒が苦手という方の意識を変えたい」と喜びを語った。</p>
(9)	<p><b>高校家庭科技術検定で千葉高生7人が「四冠王」</b></p> <p>八戸市の千葉学園高生活文化科3年生の7人が、高校家庭科技術検定で保育、和服、洋服、食物調理の4分野で、最も難易度の高い1級の取得者に贈られる「四冠王」に輝いた。同校では過去最多。青森県内で7人のみ、全国でも47人という快挙。同校の全種目合格者の輩出は今回で10年連続となった。</p>
(10)	<p><b>蕪島山頂 風景変われどもウミネコ飛来続々</b></p> <p>火災で焼失した蕪島神社に、“春の使者”のウミネコが例年通りに姿を見せた。ウミネコは、2月上旬から島の近くに姿を現し始め、14日、蕪島神社の関係者が、今年初めての着島を確認した。ウミネコ監視員によると、飛来は羽数、時期ともに例年並みという。巣作りは3月末から始まり、産卵は4月中旬、ふ化は約1か月後になる見通し。野澤宮司はウミネコの飛来に「一安心した。新しい一歩を踏み出していこうという気持ちになった」と語った。</p>
(11)	<p><b>「ヒューマンバンド on 3.11」 300人が祈りの輪</b></p> <p>3月11日、種差海岸の天然芝生地で5回目の「HUMAN BAND（ヒューマンバンド）on 3.11」が行われた。県内外の約300人が海に向かって手をつなぎ、震災復興支援ソング「花は咲く」と「ふるさと」を合唱した。また、館鼻岸壁には朝市出店者約120人が集まり、地震発生時刻に黙とうした後、避難訓練に臨み、館鼻公園まで坂道が続く道を10分ほどかけて歩いた。ヒューマンバンドは全国各地で実施されたが、同じ形で続いているのは八戸市だけとなる。</p>
(12)	<p><b>館鼻岸壁朝市 2カ月半ぶりに再開</b></p> <p>八戸市の“ハマ”の日曜名物となっている館鼻岸壁の朝市が3月13日、約2カ月半ぶりに再開された。会場には、夜明けとともに生鮮食品や惣菜、日用品など多彩な商品を扱う約250店が並び、訪れた大勢の買い物客で活気にあふれた。館鼻朝市は2003年に始まり、ピーク時は350以上もの店が出店する、市内最大規模の朝市。12月までの毎週日曜、夜明けから午前10時ごろまで開催される。</p>
(13)	<p><b>八工大とJAMSTECが連携 海洋研究の専門家育成へ</b></p> <p>政府関係機関の地方移転事業の一環で、八戸工業大に、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC、本部・横須賀市）の人材育成機能を移転させることが決まった。機能移転を受け、同大は2016年度から、機構が講義の一部を受け持つ海洋関連の新コースや、連携大学院の設置に向けた検討を本格化させる。八戸市や青森県は、将来的な研究機能の集積も見据えており、関係者は「海洋人材の拠点化と、産業振興への第一歩だ」と希望に胸を躍らせている。</p>

(14)	<p><b>八戸市民病院緩和ケア病棟 2019年度運用開始を想定</b></p> <p>八戸市立市民病院が整備を検討する緩和ケア病棟で、有識者でつくる「緩和ケア病棟整備検討会」が、設備内容などをまとめた報告書を事業管理者の三浦一章院長に提出した。報告によると、病院敷地内に個室20床程度の緩和ケア病棟を既存の病棟と渡り廊下でつなぐ形で新設する。設計、工事などに3年ほどの期間を要すると想定し、2019年度の運用開始を目指す。</p>
(15)	<p><b>もぐらんぴあ（久慈市）の「カメ吉」 5年ぶりに古里に戻る</b></p> <p>東日本大震災の津波で全壊した久慈市の久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ」から救出され、八戸市水産科学館「マリエント」に避難していたアオウミガメの「カメ吉」が3月21日、再建された古里の「もぐらんぴあ」に5年ぶりの“帰還”を果たした。両施設で開かれた見送りと出迎えのセレモニーには多くの子どもらが集まり、両市の絆を深め、復興の象徴となったカメ吉の門出を祝った。</p>
(16)	<p><b>日本酒ショップくるみや ネットショップ3年連続で金賞</b></p> <p>日本酒ショップくるみや（八戸市旭ヶ丘）が、「ネットショップ大賞2015 GRANDPRIX」（インターネット通販総合支援サービス提供の「Eストアー」が主催）で、全国銘店賞の金賞に輝いた。青森県内の日本酒を中心に常時千点以上の酒類を販売。豊富な品ぞろえ、丁寧な梱包・接客で利用者から高い信頼を得ているほか、「日本の酒蔵を元気にしたい」との熱意が伝わり、ファンが増えている点が評価されたという。くるみやは、各都道府県内で売り上げなどの成績がトップの店舗に贈られる賞を3年連続での受賞となった。</p>
(17)	<p><b>蕪嶋神社再建募金 全国からの善意1400万円送る</b></p> <p>デーリー東北新聞社は3月25日、社殿を焼失した蕪嶋神社の再建を支援するため設立した「蕪嶋神社再建募金」に寄せられた1435万1126円を、神社再建実行委員会に送った。昨年11月25日から今年3月22日までに全国350の個人、企業、団体から善意が寄せられた。募金は今後も受け付ける。</p>
(18)	<p><b>千葉高看護専攻科 国家試験に4年連続の全員合格</b></p> <p>八戸市の千葉学園高看護専攻科を2015年度に卒業した学生25人が、2月に実施された看護師の国家試験に合格した。同校の合格率100%達成は4年連続、6回目。同校のカリキュラムは、看護科3年間と同科2年間を合わせた5年一貫教育。修了後に、看護師国家試験の受験資格が得られる。25人は、4年次に座学、5年次に実習に取り組みながら試験勉強を重ねた。</p>
(19)	<p><b>八戸港に春の到来告げるブドウエビ水揚げ</b></p> <p>八戸市第2魚市場で3月30日、八戸近海で漁獲したブドウエビ約16キロが上場した。全国的に漁獲量が少なく、「幻のエビ」と呼ばれる高級食材で、八戸港にはこの時期に水揚げされる。ブドウエビは肉質がよく甘味が濃厚で、刺し身やすしのねたなどとして珍重される。この時期ならではの希少なエビに、仲買業者も「うまそうだ」と声を弾ませて品定めしていた。鮮やかに紫がかったエビが、ハマに春の到来を告げた。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	<p><b>東北六魂祭（6月青森市開催）に八戸三社大祭参加へ</b></p> <p>6月25、26日に青森市で開かれる「東北六魂祭」に、「長横町絆組」の山車が参加する。東北六魂祭は、東北6県の県庁所在地の代表的な夏祭りを一堂に集めたイベント。震災復興の一環として、2011年から東北6県持ち回りで開催されており、青森開催で一巡する。東北6県の祭りが同市の国道7号を練り歩くパレードへの参加も検討されているという。</p>

(21)	<p><b>蕪島 遺跡試掘で縄文早期の建物跡発見</b></p> <p>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館は、火災で焼失した蕪嶋神社跡地にある蕪島遺跡の試掘調査の結果、縄文時代早期（約9千～7千年前）の建物跡が見つかったことを明らかにした。調査は3月8～11日、社殿建設予定地約322平方メートルで実施。地表から20～180センチの深さまで掘り、遺物や遺構の有無、土の堆積状況を確認した。建物跡の壁と床、縄文早期中葉の「吹切沢（ふっきりさわ）式土器」や、縄文早期後葉の「ムシリⅠ式土器」、また続縄文土器（約1500年前）、弥生土器（約1700年前）、石錘（せきすい）などが出土した。</p>
(22)	<p><b>八戸学院大 女子ラグビー部創設へ</b></p> <p>八戸学院大学は、東北の大学で初となる女子ラグビー部の2017年度創設に向け、2016年度から選手の勧誘や人材発掘活動を始める。同大ラグビー部は2015年度、東北地区大学リーグ1部昇格1年目で優勝を果たし、全国大学選手権ファーストステージに初出場。女子サッカー部も創部2年目で全日本大学女子選手権に東北第2代表として出場した。両部の活躍とラグビー人気が追い風となり、同大で女子ラグビー部創設の機運が盛り上がった。</p>
(23)	<p><b>「八戸銀サバトロづけ丼」 バス乗車券とセット販売</b></p> <p>八戸市は、今年の全国ご当地どんぶり選手権でグランプリを受賞した俵屋の「八戸銀サバトロづけ丼」の食事券と、店舗近くのバス停までの往復乗車券をセットにしたバスパックを3月26日から発売している。俵屋では、銀サバトロづけ丼、イカとイクラを盛った「八戸ばくだん」（いずれもハーフサイズ）、せんべい汁などをセットにした「俵屋グランプリセット」が味わえる。料金は食事券2千円と、同市中心街発着の往復乗車券600円を合わせた2600円（税込み）。「はっち」や中心街周辺のホテルなどで販売する。</p>
(24)	<p><b>声楽アンサンブルコンテスト全国大会 八戸東高が初の金賞受賞！</b></p> <p>青森県立八戸東高の音楽部が3月18～21日に福島市で開かれた「第9回声楽アンサンブルコンテスト全国大会」の高等学校部門で5位に輝き、初の金賞を受賞した。19日に開かれた高等学校部門には、各都道府県の大会で1位に選ばれた強豪43団体が出場。八戸東高は「秋」「フランスの1本のバラ」など4曲を披露し、ウクライナ語やスペイン語など発音が難しい外国語の楽曲に挑戦した。毎朝の練習などメンバーの努力はもちろん、難易度は高いが、同校の持ち味である美しいハーモニーを最大限に生かした楽曲選び、部員たちの歌声の特徴と会場の構造がマッチしたことなども功を奏した。</p>
(25)	<p><b>昨夏の八戸三社大祭 経済波及効果は57億円</b></p> <p>八戸市の有識者らで組織する八戸地域社会研究会は、昨夏に開催された八戸三社大祭の経済波及効果が57億6900万円で、新たに581人分相当の雇用が誘発されたとする調査結果をまとめた。八戸観光コンベンション協会が発表した入り込み数、主催者と関連事業者の事業費やヒアリングなどを基に、2005年青森県産業連関表を使い、経済波及効果や雇用者の所得、消費などの規模を算出した。また、三社大祭をさらに活性化させる方策として、神社行列や山車解説の沿道のアナウンスなど、より観光客の視点に立った誘客対策も提言した。</p>